

平成17年度に実施する研究内容

浅海環境部

部長 三津谷 正

定例人事異動で大水技師が青森地方水産業改良普及所へ転出し、農林水産政策課から小野寺主任研究員が加わりました。

浅海環境部では、陸奥湾の海況と漁場環境の調査、そして貝毒調査などを主要な事業として、関連する研究に取り組んでいます。

また、今年度と来年度の2年間で、耐用年限が到来した海況自動観測システム（ブイロボット）の更新工事を行います。

なお、調査結果や観測結果については、ひきつづき各種情報を発行するほか、当所のホームページにも載せますので、参考にしてください。

1. 浅海定線調査

陸奥湾の水温などの現況と動向の把握を目的に、試験船「なつどまり」（山田船長ほか5名乗組み）により、毎月1回、定期的に海洋観測を行います。（今井総括主任研究員ほか）

2. 漁場環境監視調査

陸奥湾の漁場環境の監視と保全のための基礎

データ収集を目的に、水質調査（月1回）と生物モニタリング調査（底質と底生生物調査、年2回）を行います。（今井総括主任研究員ほか）

3. 海況自動観測

海況自動観測システムを運用し、陸奥湾の水温、塩分、流れ、溶存酸素と洋上の気温、風を毎時連続観測します。この観測結果をもとに、陸奥湾海況情報などを提供します。また、観測結果を解析し海況予報技術研究を進めます。（小野寺主任研究員ほか）

4. 貝毒発生監視調査

本県沿岸域の二枚貝（ホタテガイやムラサキイガイなど）の下痢性貝毒とまひ性貝毒による毒化状況や、毒化原因プランクトンの出現動向を調査します。合わせて、ホタテガイの対EU輸出の条件となる生産海域モニタリングも行います。

また、貝毒の最新の機器分析法を用いた新たなモニタリング手法の開発試験も進め、特に、ホタテガイの下痢性貝毒による毒化について、実用的な予測手法の開発を目指しています。（高坂技師ほか）

ほたて貝部

部長 小坂 善信

4月の人事異動により、ほたて貝部のメンバーにも交代がありました。むつ水産事務所に転出した篠原技師に代わり、同事務所から山内技師が着任しました。留任の小職と吉田総括主任研究員、鹿内技能技師ともどもよろしくお願いいたします。

今年度もホタテガイ増養殖の諸問題に取り組むことになりましたので、昨年同様よろしくお願いいたします。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1. ホタテガイIT増養殖推進事業

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施し、各種情報を提供します。（山内技師ほか）

2. 新耳吊り養殖技術開発試験

これまでの養殖方法を見直し、生産効率が高く、経費の削減を図るための新しい耳吊り養殖方法を開発しています。（小坂部長ほか）

3. 海面養殖高度化推進対策事業

養殖付着物（特にユウレイボヤ）の付着回避・防御技術の開発を行います。（吉田総括主任研究員ほか）

4. 地まきホタテガイ漁場回復調査

地まきホタテガイの外敵であるニッポンヒトデの生態を研究し、効率的な駆除方法を構築します。（吉田総括主任研究員ほか）

5. ホタテガイ活貝供給促進事業

ホタテガイ活貝の供給促進を図るために、活貝品質向上技術を開発します。（山内技師ほか）

6. ホタテガイによる環境モニタリング法に関する研究開発（新規事業）

ホタテガイの殻体運動を測定することによって環境変化を捉える方法を開発します。（吉田総括主任研究員ほか）

魚 類 部

部 長 工 藤 敏 博

4月の人事異動で、上北地方農林水産事務所へ転出された小笠原主事と退職された横山技師に代わり、水産振興課（栽培漁業振興協会派遣）から小泉技師と青森地方水産業改良普及所から小向技師が着任しました。

留任の私、菊谷総括主任研究員、川村技能技師を加えた5名で業務を行いますのでよろしくお願いいたします。

本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

1. 放流関連技術開発事業（マダラ）

マダラの栽培漁業化を図るため、良質種苗の

安定的量産と適正な放流技術を確立します。（菊谷総括主任研究員ほか）

2. 放流関連技術開発事業（マコガレイ）

第5次栽培漁業基本計画で栽培漁業対象種に選定されたマコガレイについて、種苗生産及び放流技術の開発に取り組みます。（工藤部長ほか）

3. ウスマバル量産技術開発試験

ウスマバル資源の回復の一方策として栽培漁業化の可能性を探るため、種苗生産技術の開発を行います。（小向技師ほか）

4. 海産魚類防疫対策事業

海産魚類の増養殖時における魚病蔓延を適切に防止し、被害を最小限に止めるための指導・検査等を行います。（菊谷総括主任研究員ほか）

磯根資源部

磯根資源部長 桐 原 慎 二

平成17年度には、仲村総括研究管理員、長根主任研究員、佐藤技師、佐々木非常勤労務員、工藤非常勤労務員とともに、各海域で沿岸漁業の発展に役立つ以下の試験研究を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

1. 日本海沿岸の藻場造成と磯根資源維持管理技術の開発

ハタハタの産卵場、モズク、エゴノリの着生基質、サザエの餌料、メバル類稚魚の育成場として、日本海沿岸での漁業生産上重要な役割を果たしているホンダワラ類藻場の拡大、保全技術を開発します。関連事業：日本海多機能藻場造成技術開発調査（岩崎地先）、日本海藻場調査（鱸作地先）、多機能静穏域関連調査（大戸瀬地先）

2. 陸奥湾沿岸の藻場造成と磯根資源維持管理技術の開発

アイナメの産卵場、カレイ、メバル、カニ類の育成場、ナマコ、ウニの餌料として漁業生産の上重要な役割をもち、また、水質、底質浄化機能を通して市民生活にも不可欠な役割を果たしている陸奥湾沿岸のアマモ類藻場を造成する技術を開発します。また、近年価格上昇に伴い漁獲量が増加したナマコについて、安価で大型な人工種苗量産技術を開発すると共に、資源管理手法を検討します。関連事業：海辺の海草藻

場再生推進事業（川内地先）、貝殻利用海藻藻場修復試験（野辺地地先）、ナマコ資源の培養による清らかな海の里づくり試験（川内地先など）。

3. 津軽海峡－太平洋沿岸の磯根資源維持管理技術の開発

コンブ漁場、アワビ、ウニの餌料として、津軽海峡から太平洋沿岸で重要なコンブ藻場について、効率的な「磯焼け」回復技術を開発するとともに、磯根資源や漁場の管理手法を検討、指導します。また、人工石材を用いたコンブ増殖場造成手法を検討します。関連事業：海の森回復技術開発試験（佐井、易国間、石持地先）、海の森づくり推進事業（佐井地先）、人工石材活用コンブ増殖試験（石持地先）、尻屋磯根資源調査。

4. 食用海藻類の採苗、増養殖技術の開発と指導

美味なのに生育量が少ないため漁獲販売されない海藻種（チガイソ、スジメ、アオワカメなど）について人工採苗と養殖技術を開発するとともに、養殖漁業生産が少ない日本海沿岸で、海藻養殖企業化試験の技術指導を行います。また、最近健康食品として注目されるようになったクロモ（大型のモズクの種類）の増養殖技術を開発します。関連事業：地域特産海藻養殖技術開発試験（鮫浦、石持、大戸瀬地先）、日本海拠点海藻養殖等推進事業（大間越地先）、海藻の幸による清らかな海の里づくり試験（深浦町地先）。